



高校生への 二輪車安全運転教育

好事例 2018

はじめに

高校生の二輪車利用について、日本自動車工業会が平成28年度に実施した調査によると、都道府県教育委員会の指導方針は「禁止」「条件付き許可」「制限していない」などさまざまです。二輪車利用の可否を各学校の判断に委ねているケースも多く、原付の免許取得については全日制公立高校の約半数が禁止しています。

そうしたなか、近年、県立高校の通学区域は、学区の撤廃や統合が進められ、高校生の通学範囲が拡大しています。公共交通機関が不足している地域では、片道10～20kmにおよぶ自転車通学が当たり前になっており、保護者によるマイカー送迎に頼らざるを得ないなど、通学にかかる負担は小さくありません。

原付通学を認められている生徒は、通学にかかる時間と費用が節約され、生活に余裕が出るなど大きなメリットを得ています。交通事故のリスクをできるだけ小さくし、生徒が安全に二輪車を利用できるよう、学校と社会が一体となって安全運転教育を行っていくことが重要です。

この冊子は、高校生に対する二輪車の安全運転教育を実践している8県の好事例を取り上げました。今後、安全運転教育の充実を図ろうという教育関係者・交通安全関係者の方々の参考に資すれば幸いです。

一般社団法人日本自動車工業会 二輪車特別委員会

目次

はじめに	2
事例1 栃木県 県安協の全面協力で 安全運転教育を推進	4
事例2 群馬県 「三ない運動」見直し 安全運転教育の充実へ	6
事例3 茨城県 全国トップクラス 原付通学許可校が8割	8
事例4 千葉県 すべての原付通学生徒が 安全運転講習に参加	10
事例5 新潟県 安全運転教育を通じて 広い社会性も育む	12
事例6 静岡県 定時制高校生へ 安全運転教育を実施	14
事例7 高知県 原付が必要な生徒たちへ 命を守る教育	16
事例8 大分県 県警が推進する 高校生の安全運転講習	18



▶ 8 県の安全運転教育——実施体制はさまざま

学校・県教委・警察・交通関係団体が連携

高校生に対する二輪車の安全運転教育は、予算の確保から講習の実施体制まで県によってさまざまです。原付通学を許可している学校を対象に、県教委が呼びかけを行い、県警、県安協、日本二普協、自動車教習所などが協力して実技講習を実施しています。

用語

- ・二輪車..... 原付（排気量 50cc 以下）および自動二輪車（同 50cc 超）を総じていう。
- ・自動二輪車..... 普通自動二輪車（同 50cc 超～ 400cc）および大型自動二輪車（同 400cc 超）を総じていう。
- ・県教委..... 都道府県教育委員会
- ・県安協..... 都道府県交通安全協会
- ・日本二普協..... 一般社団法人日本二輪車普及安全協会
- ・二輪車指導員..... 都道府県交通安全協会の二輪車安全運転推進委員会が行う審査に合格した二輪車安全運転指導員（特別指導員含む）。単に指導員ともいう。
- ・教習指導員..... 自動車教習所の指導員

▶ 原付通学をしている生徒たちの声

原付通学にして、 家庭の負担が軽くなった。

原付通学がどう役立っているか、いちばん多かったのは「親に負担をかけずにすむのが嬉しい」という声でした。通学にかかる鉄道やバスの費用負担は大きく、保護者によるマイカー送迎も余儀なくされています。原付を必要とする生徒は少なくありません。

いつも気をつけたい 安全運転講習で学んだこと。

数時間の講習でも生徒たちは多くのことに気づき、学んでいます。さまざまな声を集めました（本文へ）。





◆ 栃木県教育委員会事務局 学校教育課 ☎ 028-623-3382

事例

1

栃木県

県安協の全面協力で 安全運転教育を推進

安全教育の特徴 栃木県では、県安協が「高校生二輪車安全運転講習会」を主催し、講習希望校を受け入れています。例年約30校（約700人）の生徒が受講しています。

H29年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 59校中	49校	(内 42校)	約 1,200人	(内約 540人)

▶ 栃木県立栃木工業高等学校のケース



- 栃木工業高校の生徒数は約600人。
- 1年生の夏休みから原付免許取得を許可しており、年間30人近い新規取得者がいます。
- 自宅から学校まで12km以上あり、かつ自宅から自宅の最寄り駅まで2km以上ある生徒に原付通学を認めています。
- 免許取得者は県安協が行う安全運転講習を受講し、校内で行う交通安全講話にも参加します。



渡邊さん（2年生）

親から勧められてバイク通学にしました。バスケットボール部の練習で夜遅くなるのですが、自転車と比べたら1時間ほど早く帰宅できるので助かります。



小出さん（2年生）

部活が終わって山の中を夜帰るときなど道端からイノシシが飛び出してきました。あれは本当に怖いので、運転は周りをよく見て集中力が大事だと思います。



湯澤 修一 校長

原付の安全運転講習は、生徒にとって貴重な経験になっています。交通安全教育は、“真摯で思いやりのある生徒”を育てることにつながると考えています。

充実した内容の1日講習



講習の様子

栃木県で行われている高校生向けの安全運転講習は、県安協が予算を組み、各学校の実施日を調整し、会場と指導員を確保します。県警や自動車教習所、日本二普協なども協力し、白バイ隊員や二輪車指導員が指導に当たります。座学と実技をみっちり行う1日講習です。

▼県運転免許センターを活用した講習（左・左下）。
県安協の二輪車指導員がアドバイス（右下）。



“目からウロコ”のアドバイスに生徒は納得！

栃木工業高校を対象に行われた安全運転講習は、原付免許を保有する生徒約20人が参加して、午前9時から午後3時30分まで行われました。実技は広い免許センターの二輪車コースを使って、「走る、曲がる、止まる」の基本を繰り返し、生徒一人ひとりがアドバイスを受けていました。



◀ 拳がった腕が右か左か瞬時に判断し、拳がったほうに回避し急制動する課題。これがなかなか難しい。



◀ 基本走行に取り組み生徒たちは要所要所でアドバイスを受ける。白バイ隊員から褒められると、つい笑顔になる。



▲ 低速バランス走行（一本橋）はかなり難しい様子。タイムが測定され、生徒の表情も真剣だ。



▲ 見通しの悪い交差点では、停止線とまってから、さらに先が見えるところとまり、しっかり左右を安全確認する。



◆群馬県教育委員会事務局 健康体育課 ☎ 027-226-4709

事例

2

群馬県

「三ない運動」見直し 安全運転教育の充実へ



安全教育の特徴

群馬県は、高校生の二輪車利用を禁止する「三ない運動」（免許を取らない、乗らない、買わない）を推進してきましたが、2014年12月に「群馬県交通安全条例」が制定されたことに伴い、2015年7月、県教育長の通達により「学校は生徒の免許取得を妨げない」方針となり、安全運転教育を充実させる方向へと切り替わりました。現在、原付・普通二輪免許の取得を禁止する学校はありません（利用規制は行っています）。

▶ 県教委主催で初の安全運転講習開催

群馬県教委は2015年12月に「交通安全教育アクション・プログラム」を策定し、2017年7月に県教委として初めて安全運転講習を主催しました。県運転免許センターで、県立高校13校から30人の生徒と引率の教師が参加して、原付の実技講習が行われました。

▼地元出身の女性白バイ隊員は、「後輩たちにバイクの安全指導ができる絶好の機会ですね」と、嬉しそうに話していた。



▲教師も生徒も初めての安全運転講習。実施に当たって、県警、県安協、地元の「群馬県二輪車安全運転指導員協議会」が全面協力した。

教えてもらってよかった！

講習の様子

指導に当たったのは、県警の白バイ隊員2人と、地元の二輪車指導員が5人。

原付の基本走行をはじめ、“わき見”や“うわの空”の運転による空走距離を測定したり、四輪車の死角範囲を確認するなど、実際に自分の目で見て体験することで、生徒たちは安全への意識を強く持った様子です。

▼生徒と教師と一緒に運転実技を受講（右上・左下）。
地元の二輪車安全運転指導員協議会のメンバー（右下）。



教師も実技体験「今後も続けてほしい」

講習に参加した教師の1人は、一本橋に大苦戦。「難しいけど、面白いですね。生徒にとってもスキルアップや交通ルールの再認識などのよい機会でした。今後も続けてほしい」と話しました。女子生徒の1人は、「急制動をしたことがなかったので、初めてやってみて怖かった。でもギュッと握る感覚がわかったし、最後はブレーキがうまいとほめられました」と、喜んでいました。



▲“わき見”をした一瞬間の間に、原付が進む距離を測定する生徒。こんなに長い空走距離があるとは思っていませんでした。





※上の写真のバイクは原付です。

◆ 茨城県教育庁 学校教育部 保健体育課 ☎ 029-301-5349

事例

3

茨城県

全国トップクラス 原付通学許可校が8割

二輪車の利用状況 茨城県教委は高校生の自動二輪免許の取得を規制していますが、原付免許は規制せず、原付通学の可否は各学校が判断しています。

H27 年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 93 校中	86 校	(内 72 校)	約 4,600 人	(内約 2,500 人)

▶ 茨城県立つくば工科高等学校のケース

- つくば工科高校の生徒数は約 560 人。入学希望者を確保する取り組みの一つとして、近年、通学の便を図るため原付通学を許可しました。現在、約 20 人の生徒が原付通学しています。
- 原付通学の条件は 2 年生以上、自宅から学校まで 8km 以上 20km 未満となっています（20km を超える場合は保護者の送迎を推奨）。
- 原付通学生徒は、地元の自動車教習所で安全運転講習を受講します。



▲原付通学の生徒たちは「バイクでの登下校は楽しいです。気分がリフレッシュされて、学校生活にメリハリが持てます」と話していた。



◀原付通学生徒を対象に、学校近隣の自動車教習所の協力を得て、年 1 回の安全運転講習を実施している。



▲安全運転教育は、通学時の安全確保につながる。

県が安全運転教育支援

安全教育の特徴

県教委は、県の「安全なまちづくり推進室」と連携し、高校生への交通安全事業として一定予算を確保。例年、県内の10校程度を選定し、自動車教習所で原付の安全運転講習を実施しています。選定から外れた学校も、所轄警察署や県安協の協力を得て独自に安全運転講習を行うなど、安全運転教育に熱心な学校が多いようです。

茨城県立玉造工業高等学校のケース



- 玉造工業高校の生徒数は約500人で、内200人近い生徒が原付で通学しています。
- 卒業生の7割は就職し、すぐにクルマの運転が必要になるため、同校の二輪車利用の基本方針は“乗せて教える指導”です。原付の安全運転を通じて、卒業後にも役立つ交通ルールやマナーを学ばせています。
- 通学距離が短い生徒にも原付通学を許可しており、どの生徒も16歳になれば原付通学の許可申請ができます。ただし免許取得後1カ月間は家庭で運転を練習し、学校が毎月実施している「バイク講習会」を受講しなければなりません。
- 同校の「バイク講習会」は、職員用駐車場に講習コースを作って行うもので、実技指導は教職員が協力して実施しています。学校独自の手作り講習会です。
- 講習内容は、一時停止や後方確認など、基本スキルを身に付けることが目的。指導に当たる教師は、「運転技能の未熟な生徒を把握できるため、日頃から注意して見守るなど、継続的な指導が可能になります」と話しています。

島田さん（3年生）▶

通学のバス料金が1日1,000円かかります。親の負担が大きく、「安全に乗るから」という約束で、バイク通学に切り替えました。バイクにかかる費用は1カ月で5,000円程度なので、かなりの節約につながっています。



柏熊さん（3年生）▶

私は車両の構造に興味があって、卒業後は自動車関連会社に就職します。だから機械科の授業がとても面白いし、家に帰ってもバイクの整備をやったりします。朝から夜までバイクのおかげで毎日が楽しい！





◆ 千葉県教育庁 教育振興部学校安全保健課 ☎ 043-223-4091

事例

4

千葉県

すべての原付通学生徒が安全運転講習に参加

安全教育の特徴 千葉県教委は、県下すべての原付通学生徒を対象にした安全運転講習にかかる費用を予算化しており、各校年1回以上の「交通安全教室」を実施しています。

H28 年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 121 校中	39 校	(内 32 校)	約 350 人	(内約 320 人)

▶ 千葉県立多古（たこ）高等学校のケース



- 多古高校は生徒数が約 350 人。
- 学校は最寄駅まで約 10km あり、公共交通での通学には不便な環境です。このため自宅から学校まで 9km 以上（部活動している場合 5km 以上）の生徒に原付の免許取得を認め、原付通学を許可しています。75 人の生徒が原付で通学しています。
- 同校では、教職員が指導する講習も含め、1 学期に 2 回、2 学期に 2 回、3 学期に 1 回、計 5 回の安全運転講習を実施しています。



岡田さん（3 年生）

バイク通学だと親に送迎の面倒をかけずに済むのがいいです。講習会ではクルマの死角に入ると危ないことがよくわかりました。通学でも気をつけます。



高萩さん（2 年生）

自転車通学と比べたら朝の気持ちの入り方がぜんぜん違います。疲れないので授業に集中できるんです。バイクを話題にして、父親とも会話が増えました。



渡邊 範夫 校長

近年、通学手段の確保は大きな課題です。原付通学は生徒にとっても家庭にとっても、学校にとっても有益です。だからこそしっかり安全教育です！

校庭を使った効果的な講習



講習の様子

多古高校では所轄の香取警察署の協力で、学校の校庭に原付の実技コースを設定し、シンプルながらも、生徒が興味をもって取り組めるように工夫した実技指導が行われていました。

◀パイロンを使ったスラロームコースと一本橋を設営。

▼所轄の警察官が生徒目線で、親しみのある指導を展開していた（左下写真）。クルマの死角を実際に目視確認（右下写真）。



県運転免許センターで県内6校の合同講習会

講習の様子

原付通学生徒が数人しかいない学校については、県教委が運転免許センターで複数校合同の「交通安全教室」を開催しています。この取り組みにより同県では、すべての原付通学生徒への安全運転講習を可能にしています。



◀6校合同で8人の生徒が受講した。朝9時から正午まで3時間の講習だが、中味の濃い実技指導が展開されていた。



◀何度かトライするうちに、なんとか急制動が上手にできた！初めはカチカチに緊張していた表情も笑顔になった。



▲やってみると意外に難しい課題。運転技能の未熟さに気づく（写真上）。二輪車指導員の模範走行は正確で、技能の高さが伝わってくる（写真下）。



◆ 新潟県教育庁 保健体育課 ☎ 025-280-5624

事例

5

新潟県

安全運転教育を通じて 広い社会性も育む

安全教育の特徴 新潟県では主に各地域の警察署と自動車教習所が協力して安全運転講習を実施。毎年、約 50 校で延べ 1,000 人の生徒が原付の安全運転講習を受けています。

H28 年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 86 校中	67 校	(内 58 校)	約 1,500 人	(内約 425 人)

▶ 新潟県立羽茂（はもち）高等学校のケース

- 羽茂高校は佐渡島の南西部にある普通高校。生徒数は約 170 人。
- 同校では 16 歳になれば、親の承諾によって原付免許を取得することができます。自動二輪車は禁止。
- 島ではバスが主要な交通手段となっていますが、自宅から学校まで原則的に 4km 以上の生徒に原付通学を認めています。例年 60 人前後の生徒が原付で通学しています。
- 年 2 回、校内で安全運転講習を実施しています。



佐久間さん（3年生）

島の生活にはバイクが必需品です。将来、自分の子供が乗りたいと言ったら、自分の経験が役立つかもしれません。しっかり安全運転を学びたい。



濱辺さん（3年生）

島内は自然が素晴らしくて、友だちと一緒に原付でツーリングすることもあります。事故を起こさないように気をつけて、バイク通学の伝統を守りたい。



吉田 保夫 校長

就職で島を離れる生徒も多いので、安全教育を通じてルールやマナーはもちろん広い社会性を学んでほしい。地元での活躍も大いに期待しています。

運転者としての自覚を促す



講習の様子

羽茂高校では、佐渡西警察署の協力で、交通安全講話を1時間、グラウンドでの安全運転講習を1時間行いました。運転者としての責任の大きさと自覚を促す講話に、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。

◀ 体育館で行われた交通安全講話

▼ 白線で模擬交差点を設定（左下写真）。元白バイ隊員の警察官が指導に当たった。



今日は上手なブレーキングを身に付けよう！

この日の講習では警察官が、「今日は正確なブレーキングを学ぼう！」と呼びかけ、前輪だけ、後輪だけの間違った制動を実演したあと、前輪と後輪同時にジワッとまる見事な急制動を行いました。また、予想しないタイミングの急制動がいかに難しいか、生徒に体験させました。



◀ 後輪だけの急制動は、停止まで距離が長く、スリップして土ぼこりが舞った。生徒たちの目はくぎ付け（左下写真）。



▲ 急制動にチャレンジする生徒。ジワッと地面を掴むようなブレーキングができないため、制動距離が伸びてしまった。反省してもう一度トライ。



◀ 警察官の後をついて十分に速度を上げてからブレーキング。警察官より制動距離が長い生徒は、自分の運転技量を見直すいい機会になった。

事例

6

静岡県

定時制高校生へ 安全運転教育を実施

二輪車の利用状況 静岡県の県立全日制高校はすべての学校で生徒の二輪車利用を原則的に禁止しています。一方県立定時制高校 20 校のほとんどが原付や自動二輪車の免許取得を認めており、それらの免許を保有している生徒は約 220 人います。うち原付通学を許可されている生徒は約 100 人となっています（H29 年度）。

静岡県立富士高等学校（定時制）

- 富士高校（定時制）の生徒数は約 100 人。自動二輪車の免許取得も可能ですが、通学は原付に限られており、約 15 人が原付で通学しています。
- 原付通学の許可条件は「働いていること」。生徒の 8～9 割は働きながら学校に通っています。
- 授業が終わるのは夜 9 時。夜の交通手段として自転車よりも原付のほうが安心という声もあります。
- 「静岡県富士自動車学校」の協力で、年 1 回、原付通学生徒を対象に安全運転講習を実施しています。



◀ 教習コースを使って右直事故を体験（左）。
二輪車の事故動画を視聴して交通に潜む危険を考える（左下）。



石山さん（2年生）▶

自宅から学校まで片道 30km 近く原付で通っています。通学距離が長いので事故を起こさないように、集中して運転しています。



自動車教習所が協力

安全教育の特徴

静岡県教委は予算を確保し、主に県立定時制高校に対して「二輪車グッドマナー講習会」を毎年実施しています。平成29年度は県立定時制高校20校のうち18校が参加しており、実技は延べ250人が受講。交通安全講話には延べ約600人の生徒が参加しています。この講習会は、同県教委が県指定自動車教習所協会と連携し、各地の教習所の協力を得て実施しています。

静岡県立科学技術高等学校（定時制）



▲岩淵さん（4年生）

スラロームは難しかった。運転に慣れてるつもりでも、初心に戻って反省できた点がとてもよかった。



▲大橋さん（4年生）

事故を避けるには、交差点での注意がとくに大切です。「止まれ」はしっかり止まって安全確認します。

- 科学技術高校（定時制）の生徒数は約90人。生徒の約半数は、働きながら学校に通っています。
- 原付や自動二輪車の免許取得が認められており、通勤など生活のなかで二輪車を利用することが可能です。原付免許または普通二輪免許を取得している生徒は10人程度います。
- 学校は静岡市内にあり、最寄駅まで100mという好立地なため原則的に二輪車通学は禁止です。
- 同校では、県教委の「二輪車グッドマナー講習会」を活用し、近隣の「静岡県自動車学校」の協力で、年に1回、安全運転講習を行っています。

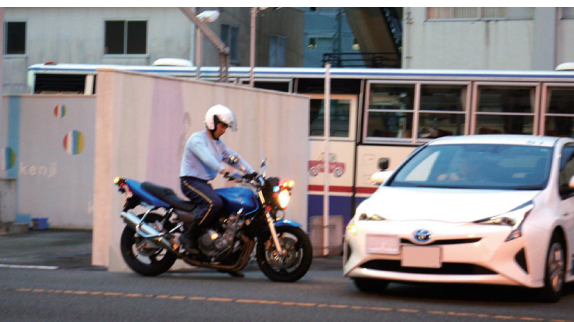
講習の様子

- 原付や自動二輪免許を保有している生徒は、自分の二輪車で教習所に集合し、実技指導を受けます。また、免許を持たない生徒も見学し、クルマの死角などについて一緒に学びます。
- 実技では、パイロンスラロームや低速バランスなど、基本的な技能走行を行って、教習指導員がアドバイスします。また、「右直事故」や「出会い頭の衝突」など、二輪車によくみられる事故パターンを教習指導員が再現し、どうすれば危険を回避できるか指導します。



プロテクターを装着して実技に取り組んだ。

- ◀教習指導員が出会い頭の衝突事故を再現。二輪車特有の事故パターンを知ることが危険予測につながる。





◆ 高知県教育委員会事務局 学校安全対策課 ☎ 088-821-4533

事例

7

高知県

原付が必要な生徒たちへ 命を守る教育

安全教育の特徴 高知県では高等学校長協会の申し合わせで、通学に必要な生徒にのみ原付免許の取得を認めています。例年、県教委が予算を確保して原付通学許可校を対象にした「原付安全運転講習会」を実施しており、県安協に事業を委託しています。

H28 年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 34 校中	24 校	(内 22 校)	約 520 人	(内約 520 人)

高知県立須崎高等学校のケース

- 須崎高校の生徒数は約 250 人。太平洋岸に近く、南海トラフ地震に備えた防災活動が評価され、平成 28 年度に内閣総理大臣表彰を受けた学校です。
- 片道 30km 以上の通学で、バス代が 1 カ月 3 万円を超える生徒もいます。
- 自宅から学校まで 8km 以上ある生徒は 1 年の夏休み以降に免許を取得し、原付通学が許可されます。
- 原付通学生徒は約 40 人います。



谷岡さん (2 年生)

原付免許を取ったことで優先道路がどちらとか、交通ルールの知識が広がりました。自転車に乗るときもマナーが大事だと思えるようになりました。



中村さん (2 年生)

講習では、運転中の視線が近すぎると指摘されました。遠くを見て運転することで気持ちに余裕が出て、ふらつきもなくなって、とても嬉しいです。



秋森 学 校 長

防災と交通安全は、高校生年代のうちにしっかり学んでおくことが大切です。その経験を活かして、地域社会のリーダーとして育ててほしいですね。

地元指導員が熱心に教える



講習の様子 須崎高校の安全運転講習では、県安協の二輪車指導員が中心になって講習の日程調整や準備を行い、講習当日は実技指導を行いました。県警や日本二普協もこうした活動を支援しています。

◀講習には県安協のスタッフと二輪車指導員、県警からは白バイ隊員と所轄警察署の担当者が訪れ、体育館で交通講話を1時間、校庭で実技指導を1時間行った。

▼車両点検（左下） 正しい乗車姿勢の指導（下）



生徒の多くが自主的に「救命講習」を受講

須崎高校では、交通事故や災害時対応など安全教育の観点から、消防の「救命講習」を積極的に取り入れています。2年生全員が「普通救命講習」（3時間）を受講し、3年生は希望者（生徒の半数以上）が「上級救命講習」（8時間）を受講します。市の防災訓練で講習の成果を披露するなどボランティアにも取り組んでいます。



◀素晴らしい自然が周囲を囲む。学校は海に近く、大地震が発生したら津波への警戒も必要。教科にはなくても、防災と交通安全は大切な教育テーマになっている。



◀救命講習の「入門コース」の様子。同校では、教職員が「普通救命講習」の指導資格を取得して、生徒への講習を自ら行っている。



▲短い時間だが効果的な実技指導によって学ぶところは大きい。



▲二輪車指導員のアドバイスに耳を傾ける生徒。「授業よりずっと楽しい!」「もっと長い時間教えてほしい」と話している生徒もいた。

国東高等学校
農場入口



◆ 大分県教育庁 学校安全・安心支援課 ☎ 097-506-5548

事例

8

大分県

県警が推進する 高校生の安全運転講習

安全教育の特徴 大分県は各学校で、通学に必要な生徒のみ原付免許の取得を認めています。同県では教育関係者、警察、交通関係団体による「高等学校交通安全教育推進連絡会議」を設置し、関係機関が連携。また、県警が予算を組み、県内の高校を対象にした「若年者二輪体験型講習」を実施しています。

H28年度	原付免許取得許可校	(原付通学許可校)	原付免許保有生徒	(原付通学生徒)
全日制高校 38校中	38校	(内 21校)	約 500人	(内約 500人)

▶ 大分県立国東（くにさき）高等学校のケース

- 国東高校の生徒数は約 530 人。公共交通が不足しており、保護者の送り迎えに頼る生徒が多い状況です。自宅から学校まで 11km 以上の生徒に原付通学を認めています（30km 以上は距離が長すぎるため不可）。
- 1 年の春休みに原付免許の取得を許可しており、2 年生になると原付通学が可能になります。
- 全校で 50 人以上の原付通学生徒がいます。



佐藤さん（2年生）

講習では、交差点を通過するとき、対向の右折車に注意するよう教わりましたが、なるほどと思いました。公道でも意識して走りたいと思います。



松村さん（2年生）

指導員の方にブレーキの緩みを指摘され、しっかり整備してもらいました。ぜんぜん利きが違うので驚いています。車両点検のやり方が勉強になりました。



後藤 雅宏 校長

原付通学には家庭の負担を軽減する利点があります。有意義な高校生活を送るために、交通に潜む危険を回避する予測能力をしっかりと養ってほしい。

マナーアップを重点指導

講習の様子 国東高校では、例年、原付通学生徒50人を半分ずつ2日に分け、近隣の「国東自動車学校」に出向いて原付の安全運転講習を行っています。実技は3班に分かれ、「車両整備」「慣熟走行」「クルマの死角体験」を行い、教習指導員が生徒一人ひとりにアドバイスします。また「車両整備」では、教習指導員が生徒の原付を1台1台車両点検し、ブレーキの緩みなどを調整してくれました。



▼ 所轄警察署の挨拶（下） 車両の点検方法を教える（右下）



講習が面白い！ いままでが自己流すぎた

「運転姿勢はしっかりヒザを閉じて、足はフロアに揃えてね！」「もっと遠くをよく見て曲がる。そう！」教習指導員のアドバイスで「走る、曲がる、止まる」の運転がガラリと変わります。正しい運転方法をじっくり教えてもらったのは初めてという生徒も少なくありません。みんな真剣に取り組んでいました。



◀ 教習指導員が見せる見事なスラローム走行。追走する生徒たちは、なんとか上手に真似して走ろうと精いっぱいだ。



▲ 教習所のコースを使った慣熟走行



◀ 「なるべく短い距離でとまろう」と、ブレーキングの練習を繰り返す。公道では避けるべき急制動を安全な場所で体験することが大切。



▲ 教習指導員は、「地域の一員として、公道での安全運転とマナーアップに取り組んでほしい」と呼びかけていた。



二輪車メーカーおよび二輪車関係団体は、高校生への安全運転教育を推進しています。高校生を対象にした二輪車の安全運転講習等につきましては下記にお問合わせください。

一般社団法人日本二輪車普及安全協会
安全本部

〒170-0005
東京都豊島区南大塚 2-25-15
South 新大塚ビル 7F
TEL. 03-6902-8190

 一般社団法人
日本二輪車普及安全協会

JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

発行：一般社団法人日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30
日本自動車会館

2018.2